

三月二十一日追撃攻撃ニ向ヘル機花(神雷)ガ敵機ニ喰ハレテ了ツタコトヤ敵ノ無線ガ被害續發ノ周章状態ヲ示シテ居ナイコト等ト照會シ5AFノ戦果報告ニ疑念ヲ持ツテ居タ。其ノ戦果ハ概ネ四隻以下ト判断シタ
 軍司令部ハ其ノ戦果ヲ更ニ内輪ニ判断シニ隻内外ト推定シテ居タガ皆無トハ考ヘナカツタ
 三月二十三日米ノKdbガ沖繩ヲ攻撃シタ時上陸ノ前兆ト判断シナカツタカ
 前兆トハ考ヘナカツタ
 5AFノ如キハ莫大ナル損害ヲ受ケタKdbガ「ウルシー」歸投ノ途中腹疼セノ爲悪戯ヲシテ居ル程度ニ判断シテ居タ。例レニシテモ一旦「ウルシー」ニ歸投シタ後船團ヲ伴ツテ北上シ來ルモノト判断シテ居タ
 天候航空作戦ノ初動ヲ失敗シタ原因考察
 原因次ノ諸點ナリ
 A 一月中旬檢討セラレタ如ク航空作戦準備ガ本格的ニ出來ルノハ五
 月末デアツテ三月末ニハ非常ナ無理ガアツタコト
 B 5AFガ攻撃ニ熱中シ船團ノ攻撃ニ熱意カナク6FAノ特攻ニ依存シテ居タ 而モ6FAノ準備ハ海軍ヨリ更ニ遅レテ居タ
 C 九州沖航空戦ノ戦果ヲ過大ニ判断シ先入主観ト相俟テ米Kdbハ一旦「ウルシー」ニ歸投シタ後、北上スルモノト誤判シタコト
 D 三月二十五日米軍ガ慶良間列島攻撃ヲ見テ沖繩本島上陸迄時間的間隔ガアルト判断シタコト

三月二十一日追撃攻撃ニ向ヘル機花(神雷)ガ敵機ニ喰ハレテ了ツタコトヤ敵ノ無線ガ被害續發ノ周章状態ヲ示シテ居ナイコト等ト照會シ5AFノ戦果報告ニ疑念ヲ持ツテ居タ。其ノ戦果ハ概ネ四隻以下ト判断シタ
 軍司令部ハ其ノ戦果ヲ更ニ内輪ニ判断シニ隻内外ト推定シテ居タガ皆無トハ考ヘナカツタ
 三月二十三日米ノKdbガ沖繩ヲ攻撃シタ時上陸ノ前兆ト判断シナカツタカ
 前兆トハ考ヘナカツタ
 5AFノ如キハ莫大ナル損害ヲ受ケタKdbガ「ウルシー」歸投ノ途中腹疼セノ爲悪戯ヲシテ居ル程度ニ判断シテ居タ。例レニシテモ一旦「ウルシー」ニ歸投シタ後船團ヲ伴ツテ北上シ來ルモノト判断シテ居タ
 天候航空作戦ノ初動ヲ失敗シタ原因考察
 原因次ノ諸點ナリ
 A 一月中旬檢討セラレタ如ク航空作戦準備ガ本格的ニ出來ルノハ五
 月末デアツテ三月末ニハ非常ナ無理ガアツタコト
 B 5AFガ攻撃ニ熱中シ船團ノ攻撃ニ熱意カナク6FAノ特攻ニ依存シテ居タ 而モ6FAノ準備ハ海軍ヨリ更ニ遅レテ居タ
 C 九州沖航空戦ノ戦果ヲ過大ニ判断シ先入主観ト相俟テ米Kdbハ一旦「ウルシー」ニ歸投シタ後、北上スルモノト誤判シタコト
 D 三月二十五日米軍ガ慶良間列島攻撃ヲ見テ沖繩本島上陸迄時間的間隔ガアルト判断シタコト

海軍ハ右ニ基キ精銳部隊ヲ以テKdヲ特攻隊ヲ以テ艦船ヲ攻襲スルコ
 トヲ豫定シテ居タ
 BAFハ初期ニ於テハKdニ偏シ過キタ嫌ヒカアルガGPAガ立チ遅レルヤ
 軍ヲ督勵スル意味デ四月四日ノ朝水一戦ノ計畫トナリ艦船攻襲ヲ開
 始シタ
 爾後計畫通りニナツタ
 主戦ノ變更ハ無カツタ
 五月四、五日ニ亘ル32Aノ攻襲失敗シ沖繩作戰ノ前途モ見エテ居ルト
 思ハレル五月上、中旬ニ於テ天號ノ強行、道上艦ニ依ル沖繩奪回ヲ
 企圖サレタ理由如何
 天號航空作戰ノ強行ヲ堅持シタノハ現地部隊ノ報告ヤ米軍ノ無電報
 報等ニ依リ天號ノ航空特攻ハ米艦船ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ得テ居ル
 ト信ンジテ居タカラデアアル。逆上艦ニ依ル沖繩奪回ハ軍令部長大
 西瀧次郎中將ガ獨リ之ヲ主張シ關係者ニ其ノ準備ヲ督勵シタカラ己
 ムヲ得ズ行ツタモノデ作戰部長以下ソノ成功ヲ信ンジテ居ルモノハ
 無カツタ。唯敵ガ爾後奄美大島ヤ種子島ニ進出作戰ヲ進メテ來タ時
 ニ使ヘルカモ知レナイト考ヘテ居タ程度デアアル
 GFAデモ神樂隊ノミガ其ノ主張者デアツタ
 九州ノ川並造船ノ社長ノ意見具申ヲ容入レテ逆上艦用ノ小舟艇ヲ造
 造サセル外各種中、小舟艇ヲ蒐集スルコトガ初ノラレテ居タ
 A五月二十八日GFAヲGF長官ノ指揮カラ解カレテ居ル
 右ハ陸海双方ニ於テ沖繩作戰ニ見切りヲツケタカラカ

海軍ハ右ニ基キ精銳部隊ヲ以テKdヲ特攻隊ヲ以テ艦船ヲ攻襲スルコ
 トヲ豫定シテ居タ
 BAFハ初期ニ於テハKdニ偏シ過キタ嫌ヒカアルガGPAガ立チ遅レルヤ
 軍ヲ督勵スル意味デ四月四日ノ朝水一戦ノ計畫トナリ艦船攻襲ヲ開
 始シタ
 爾後計畫通りニナツタ
 主戦ノ變更ハ無カツタ
 五月四、五日ニ亘ル32Aノ攻襲失敗シ沖繩作戰ノ前途モ見エテ居ルト
 思ハレル五月上、中旬ニ於テ天號ノ強行、道上艦ニ依ル沖繩奪回ヲ
 企圖サレタ理由如何
 天號航空作戰ノ強行ヲ堅持シタノハ現地部隊ノ報告ヤ米軍ノ無電報
 報等ニ依リ天號ノ航空特攻ハ米艦船ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ得テ居ル
 ト信ンジテ居タカラデアアル。逆上艦ニ依ル沖繩奪回ハ軍令部長大
 西瀧次郎中將ガ獨リ之ヲ主張シ關係者ニ其ノ準備ヲ督勵シタカラ己
 ムヲ得ズ行ツタモノデ作戰部長以下ソノ成功ヲ信ンジテ居ルモノハ
 無カツタ。唯敵ガ爾後奄美大島ヤ種子島ニ進出作戰ヲ進メテ來タ時
 ニ使ヘルカモ知レナイト考ヘテ居タ程度デアアル
 GFAデモ神樂隊ノミガ其ノ主張者デアツタ
 九州ノ川並造船ノ社長ノ意見具申ヲ容入レテ逆上艦用ノ小舟艇ヲ造
 造サセル外各種中、小舟艇ヲ蒐集スルコトガ初ノラレテ居タ
 A五月二十八日GFAヲGF長官ノ指揮カラ解カレテ居ル
 右ハ陸海双方ニ於テ沖繩作戰ニ見切りヲツケタカラカ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

敵艦偵察機に二十ノミ

Q

或ハ陸軍ノミガ見切りヲツケタノカ

又海軍ハ六月二十一、二日ノ菊水十號作戦ニ至ル迄天龍作戦ヲ繼
 續シテ居ルガ其ノ意圖ハ一陸軍ハ五月二十六日ノ大膽指ニ依リ西
 日本ヲ意圖トスル本土作戦準備ヲ明示シテ居ル、ソレトノ關係如
 何

自分ハ四月下旬頃カラ天龍航空作戦ノ決戦ノ望ミハ既ニ無クナツタ
 ト判断シテ居タ但シ敵ノ艦船ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ又與ヘツツアル
 コトハ信ンジテ居タ

五月二十四日機龍空襲作戦ヲ實施シタ以後海軍ノ方ニ於テモ明確ニ
 沖繩ニ於ケル決勝ノ望ヲ捨テテ居タ

從テ天龍航空作戦ノ見透シニ就テハ陸海兩當局者ノ認識ハ一致シテ
 居タト思フ ^{6PA}復歸セシメラレタノモ此ノ認識ノ下ニ行ハレタモ
 ノト思フ

海軍ニ於テモ五月 日及ビ四月 日 ^{3AF}主力及 ^{10AF} ^{5AF}ノ指揮カ
 ラ解イタノハ同様ノ見解ヲ示スモノデアル

^{5AF}ハ六月二十一、二日迄菊水作戦ヲ反覆シタノミナラズ終戦時迄沖
 繩ニ對スル作戦ヲ繼續シテ居ル 但シ五月下旬以降ニ於テハ天龍決
 戦思想カラ敵ノ消耗ヲ企圖スル出血作戦ニ變化シテ居ル(實質的ニ
 ハ) 尙 ^{6FA} ^{GF}長官ノ指揮カラ解イタ有リナル理由ハ五月二十九日
 聯合艦隊司令長官ガ小澤中將トナリ ^{6FA}司令官ト停年ノ新古關係ヲ考
 慮スル必要ガアツタカラデアロウ

天龍作戦間陸軍ノ之ニ對スル熱意ニ就テ海軍側ノ所感如何

出... 敵軍... 航空... 戦果... 報告... 調査... 依ツテ... 承知... 得タ... 戦... 果カラ見ルト... 架空ノ... 数字トナツタ

数字ヲ得タ 機軍特ニ航空機軍司令部ハ一二日説き主張シタ

右ハ比島方面。沖繩作戦ノ戦果報告ヲ取程度制引シテソレヲ從來ノ命中率ト見テ居タノデアル 従テ戦後ノ調査ニ依ツテ承知シ得タ戦果カラ見ルト架空ノ数字トナツタ

A Q

T

米上陸軍ガ敵方向ニ分散シ即チ敵次ノ補給ニ分レテ時間間隔ヲ置イテ来攻スル場合懸期シタ故チ命中率ガ得ラレルデアロウカ
航空特攻ハ先ツ九州。四國方面ニ展開シテ居ル部隊ガ攻撃シ遂チ他方面ノ戦力ヲ推進シテ攻撃サセル其ノ結果攻撃ハ七一〇日間ニ且ル 又攻撃目標ハ夫々當該正面ノ攻撃容易ナル目標ヲ選バサセル 従テ當初一週間位ノ時間内ニ上陸ヲ企圖スル敵船團所謂廣イ意味ノ第一波ニ對シテハ痛撃ヲ與ヘ得ルト考ヘタ

A Q

T

上陸軍船團ノ隻数計算ノ基礎如何
當時陸軍側ノ情報ヲ檢討ヲ利用シ陸海共同シテ詳細ニ檢討シタ
六月八日前ノ研究デハ二〇個師團一〇〇〇隻 三〇乃至四〇個師團一〇〇〇隻ト見タガソノ後更ニ研究ヲ置キ又輸送ノ外各種補給ガ多數参加スルコトヲ懸期シテ一〇個師團一〇〇〇隻ト檢討シタ
九州方面ニ来攻スル場合第一波ハ一〇個師團、第二波ハ五一一〇個師團(時間間隔ハ一週間内外)ト見。隻数ヲ二〇〇〇隻内外ト概算シタ 又種々島等ニ基地ヲ進メ沖繩、種々島基地ハ中小船ヲ用ヒル場合ヲモ考慮ニ入レタ

從テ六月八日御前會議ニ於ケル軍令部部長ノ説明資料トシテ研究サレタ数字ハソノ後ノ研究ニ比シ概ネ一二倍イ

敵軍の侵入に對しては、我が軍は、自衛の爲め、必要の準備を講ずるべし。又、我が軍は、自衛の爲め、必要の準備を講ずるべし。又、我が軍は、自衛の爲め、必要の準備を講ずるべし。

Q	A
<p> B 我ニ不利ナリヤ如何ナル點ガ 砲撃ノ損害ニ依リ麻痺状態ガ悪化シ組織的抗戦力ガ低下スルコ トヲ憂慮シタ 特ニ飛行機・燃料ノ消耗・食糧ノ窮乏・交通ノ杜絶等ガ最も懸念 サレル所デアツタ </p>	<p> 本土決戦ニ先チ敵ガ中支・奄美大島・濟州島ニ進攻シテ來タ場合之 ニ對スル航空攻撃ハ本土ノ決戦トノ關係ニ於テ如何ナル配分ニ用意 サレテ居タカ 濟州島ノ場合ハ全力ヲ投入スル計畫ハナカツタ^{12f}ノ範圍ヲ限定シテ 居タ 中支ノ場合ハ特攻ハ陸軍兵力ニ一任スル考ヘデアツタ 奄美大島ノ場合ハ精銳ナル一部兵力ヲ以テ短期ナル攻撃ヲ實施スル 豫定デアツタ 但シ何レノ場合デモ此間^{Kd p}攻撃ノ好機ガアレバソノ攻撃ヲ實行スル 計畫ハ持ツテ居タ(別紙参照) </p>
Q	A
<p> 南部九州攻撃ノ場合孰島ニ先ツ米軍ガ足ヲカケルトノ着意ハ強カツ タカ 一九四五年七月九州ヲ決戦航空作戦ニ關スル陸海合同ノ協定ヲ實施 シタ際此點ガ一層強調セラレタ 但シ同島ノ地勢上大ナル價値ナシト謂フ結論ニ達シ海上特攻ノ一部 ヲ配備スル計畫ニ止ツタ </p>	<p> F 一九四五年七月九州ヲ決戦航空作戦ニ關スル陸海合同ノ協定ヲ實施 シタ際此點ガ一層強調セラレタ 但シ同島ノ地勢上大ナル價値ナシト謂フ結論ニ達シ海上特攻ノ一部 ヲ配備スル計畫ニ止ツタ </p>

米軍が本土上陸前ニ行フヘキ砲撃隊ニ依リ航空戦力ノ消耗ヲ幾何ノ程度ニ考ヘテ居タカ
 從來ノ統計ト本土ニ於ケル徹底シタ秘密指道、生産ノ關係等ヲ詳細ニ検討シタ結果60%ト見積ツタ
 右検討ノ結果ハ實地90%程度トナツタガ内種ニ見積ツナ0%ト考ヘタノデアアル
 當時ハ半陸イ算計ダト考ヘタ
 本土航空作戦ノタメ海軍ノ航空艦隊準備數ハ如何
 決戦段階ハ約二二二一〇并
 右ハ機動用並攻撃用^(full)合シテ一機分ノ一、五倍ニ相當スル
 制空戦闘機。偵察機ハ一、五倍アハ不十分デハナイカ、被爆ノ損害ソノ他ノ消耗ノ見積リハ如何
 河精ニ秘密スルコトニ努メ被爆損害ハ考慮ニ入レナカツタ
 本土ノ防空ニ必要ナ遊撃戦闘機ノ所要燃料ハ大型機ニ對シ月三回位^{必要}得ル燃料ヲ別ニ保持シテ居タ
 航空特攻ニ當ツテ米船艦泊地上空ノ制空ニ就テ確信ガアツタカ十分ナ自信ハナカツタ
 從テ攻撃ノ時機ハ薄暮。夜間。黎明ヲ主トシ晝間攻撃ノ必要ナ場合短時間限定サレタ空域ノ制空ヲ敢行スルコトヲ考ヘテ居タ
 本土作戦ニ於ケル海上特攻ノ戦果算計ノ基礎ニ就テ
 A 舟艇ノ性能上焦點ニ西日本(東日本)ノ隻數ヲ集中シ得ルトノ

Q	A	Q	A	Q	A	Q	A	Q
	TR		TR		TR		T	

Q A T AT
米軍は本土に侵入し、我々の防線は既に突破され、我々の戦力は著しく減少し、我々の領土は既に占領され、我々の人民は既に捕虜となつてゐる。我々の戦況は極めて悪く、我々の存続は危ぶまれている。我々の戦力は、我々の戦況に反比例して、著しく減少してゐる。我々の戦況は、我々の戦力に反比例して、極めて悪く、我々の存続は危ぶまれている。我々の戦力は、我々の戦況に反比例して、著しく減少してゐる。我々の戦況は、我々の戦力に反比例して、極めて悪く、我々の存続は危ぶまれている。

前提ハ間違ツテ居ナイカ

B 命中率ヤ基地損耗ノ見込ミノ基礎ハ

A 戦場近海ノモノノミガ使用シ得ルト考ヘルノガ至當デアロウ

但シ海軍調査團ニ報告サレテ居ル特攻舟艇ノ配備ハ七月二十七日

現在ノモノデ特攻舟艇ノ生産ハソノ頃カラ生産ガ急昇シテ居タノ

チ財ニ多クノ舟艇ヲ南九州ニ配備シ得ル見込デアツタ

B 既往ノ統計ガ少イノデ日算ニ過ギナイ

海上特攻舟艇ノ燃料準備ハ十分デアツタカ

必要量ハアツタ

Q 決戦航空作戦ニ關スル陸海軍中央協定ガ七月中旬ニナツテ出来タノハ
過キニ過ギナイカ

陸軍側ハ五月二十六日既ニ四日本ヲ重點トスル航空作戦準備ヲ發令

シテ居ルガ海軍側ハ如何

海軍側ハ六月人事ノ大異動ヲ行ヒ實質的ニハ本土ノ作戦準備ヲ進メ

テ居タ

陸軍側トハ既ニ設備協定ヲ遂ゲ航空本部ヤ各鎮守府ヤ出来ル準備即
チ基地・飛行機ノ整備・人員ノ教育訓練・燃料ノ集積等ハ着手進歩
シテ居タ

本土決戦ニ關スル海軍首脳部ノ自信・見込シ如何

A 必勝ノ信念ハ無カツタ 成否ハ別トシテ帝國海軍ノ傳統ヲ飾ル爲必

然的ニ踏マホバラナイ階梯ダト考ヘテ居タト思フ

既在ノモノト兼攻ノ用事ハソノニカモ引事ガ事ナクヤ面カ
 田ノ事業ノ進歩ニ資カシラシクモ其ノ事業ノ進歩ニ資カシラシクモ
 ▲ 戦時中ノモノト兼攻ノ用事ハソノニカモ引事ガ事ナクヤ面カ
 田ノ事業ノ進歩ニ資カシラシクモ其ノ事業ノ進歩ニ資カシラシクモ
 戦時中ノモノト兼攻ノ用事ハソノニカモ引事ガ事ナクヤ面カ
 田ノ事業ノ進歩ニ資カシラシクモ其ノ事業ノ進歩ニ資カシラシクモ

但シ九州沖ノ決戦ニ於テハ既程度ノ成功ヲ收メ得ルカモ知レナイ
 一庵米軍ガ本土ノ攻撃ニ懸念スレバ「ソ」ニ集セラレル虞ガ大デ
 アルカラ最後ノ政治工作ノ機ガアルカモ知レナイトノ一線ノ策ヲ
 持ツテ居タ

當時軍令部作戦部長ハ上司カラ和平政治問題ニ關心ヲ寄ヤルコト
 ヲ嚴禁シ専ラ作戦ノ事ニ専事スルヲ要旨サレテ居タ

本土決戦ノ爲各機種ノ所要燃料見込書如何

機種 (機上: 水上: 夜間) 機数 (機上: 水上: 機上)

fc	(96式)	330 (L)			
fc	(0式)	570 (330) L	fd	(96式)	656 (L)
fc	(雷電)	990 (L)	fd	(99式)	1080 (L)
fc	(紫電)	820 (450) L	fd	(紫電)	1540 (L)
fcg	(2式)	850 (L)	fgd	(雷電)	1200 (L)
fcg	(月光)	2460 (L)	fid	(銀河)	5700 (L)
攻撃機 (機上: 機上) 偵察機 観測機 (機上: 水上: 機上)					
fo	(97式)	1160 (L)	fr	(彩雲)	1356 (730) L
fo	(天山)	1605 (300) L	fr	(2式)	1080 (330) X 2 L
f10	(96式)	5390 (L)	fr	(98式)	294KG
f10	(1式)	6490 (L)			

